

## [概要]

学校法人白峰学園は2020年5月27日(水)に開催した理事会、評議員会で2019年度決算を承認しました。学校法人会計の計算書類(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)は、私立学校法と学校法人会計基準に定められた規則に基づき作成されています。概要は以下の通りです。

### 【資金収支計算書】

資金繰りの状態を表すもので、2019年度内の全ての資金の流れを表示しています。収入の部は学生生徒等納付金収入2億7,515万5,000円、手数料収入240万5,000円、寄付金収入1,067万8,000円、補助金収入5,214万9,000円、雑収入3,985万7,000円、前受金収入1億3,164万7,000円など合計で8億773万5,000円です。

支出の部は人件費3億9,281万円、教育研究経費1億2,303万4,000円、管理経費7,326万9,000円、施設関係支出3,205万8,000円、設備関係支出1,203万9,000円などで翌年度繰越支払資金を含め合計で8億773万5,000円となります。

### 【事業活動収支計算書】

2019年度の収入と支出の均衡状況を示し、当法人の経営状態を表す計算書で、教育活動収支と教育活動外収支を合わせた経常収支および特別収支で構成されています。

教育活動収入は、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入で合計3億8,777万5,000円。一方、教育活動支出は人件費、教育研究経費、管理経費などで合計6億7,698万6,000円。教育活動収支差額は2億8,921万1,000円の支出超過となります。

教育活動外収入の受取利息・配当金収入1,766万3,000円を含めた経常収支差額は2億7,154万8,000円の支出超過。特別支出の資産処分差額を含め基本金組入前当年度収支差額(事業活動収支差額)は2億7,182万6,000円の支出超過となります。予算編成時の見込みに比べ、諸経費節減努力等により支出超過額は2,254万3,000円縮小しましたが、短期大学の在学学生数が総定員に対し半数割れにまで落ち込み学生生徒等納付金収入が大幅に減少したことが響きました。2020年度は入学生数が前年度を上回り、総定員充足率も5割を超えるところまで回復し納付金収入は前年度より増える見通しです。

教育の向上を目的にした資産の取得や大規模補修工事のために必要な費用の総額である基本金組入額は3,226万7,000円。これにより基本金組入後の当年度収支差額は3億409万3,000円の支出超過となります。

2019年度は、施設整備、教育研究機器備品や図書館図書の購入などを行うため基本金を組み入れました。

### 【貸借対照表】

貸借対照表は、2019年度末における当法人の財政状態を示す計算書で、資産の部、負債の部、純資産の部により構成されています。有形固定資産の土地、建物、構築物、機器備品などについては、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で計算しています。資産の部合計は47億180万3,000円です。固定負債の退職給与引当金、流動負債の未払金、前受金など負債の部合計は1億7,388万9,000円です。基本金と繰越収支差額で構成される純資産の部合計は45億2,791万4,000円となります。

## [今後の取り組み]

本学園の財務改善に向け大きな要素を占める短期大学部門の学生生徒等納付金収入の増加を図るため、入学生募集活動は引き続き最重要事項として取り組む方針です。ただ、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた政府や自治体の要請に対応することを踏まえ、当初の計画に必要な修正を加えながら施策を推進していきます。併せて設置校である横浜女子短期大学と附属幼稚園における教育研究活動を円滑に実施できる環境を整えるとともに安全性を維持する観点から、施設設備の補修・改修・更新工事などを、感染症対策を講じた上で順次進めます。

白峰学園では設置校の諸活動を支えるべく良好な教育環境と財務基盤を整備する努力を続け、本学園の設立目的である児童福祉と幼児教育への貢献を具現化していく所存です。